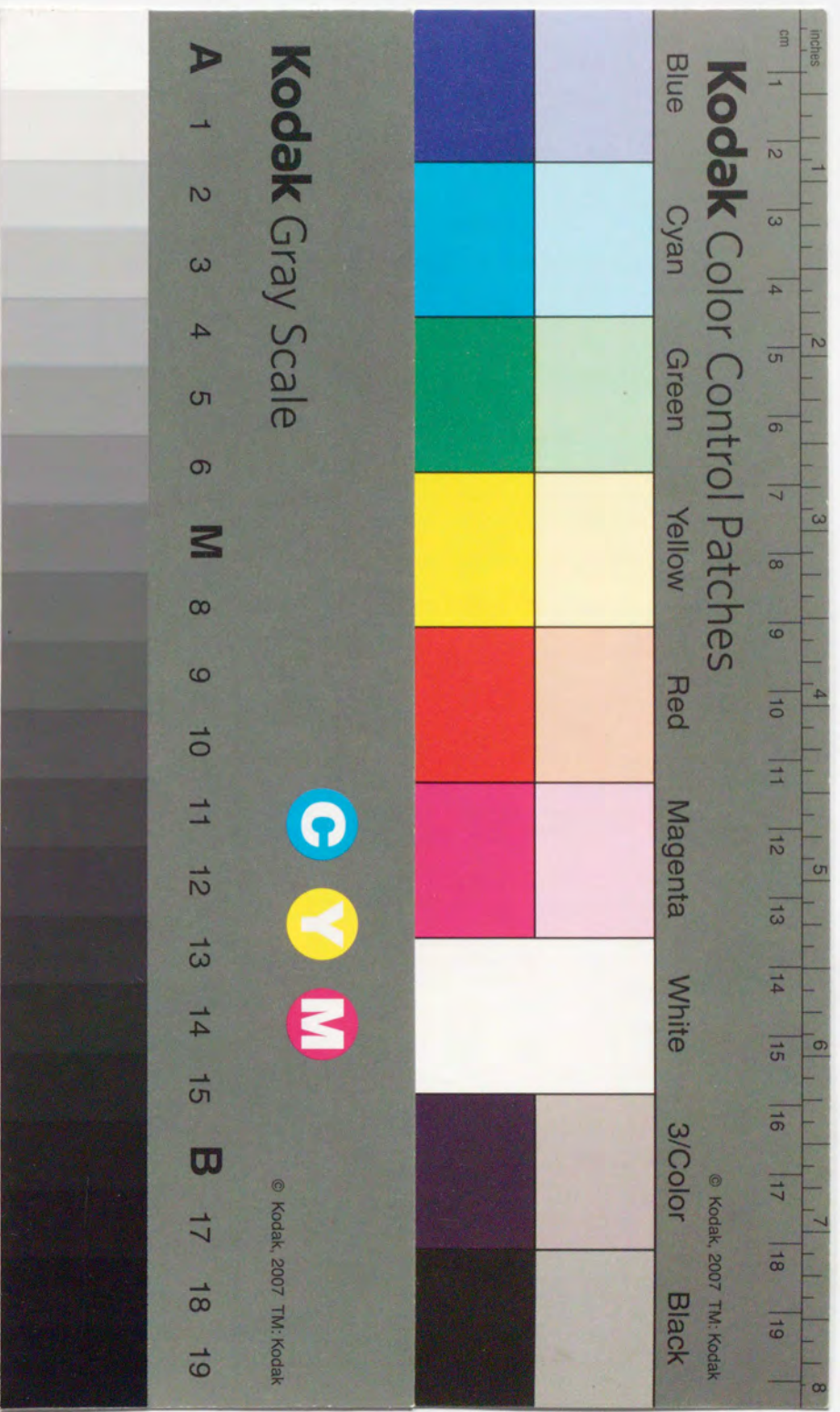




二十四孝譜

二十四孝諺解



大衆

父ハ賢吏として盲目あり其ハ家として其第一の人物なり
母ハ一母として人として其第一の人物なり
父ハ賢吏として盲目あり其ハ家として其第一の人物なり
母ハ一母として人として其第一の人物なり



[illegible][illegible]

黃番

[illegible]

関氏と名を著し寒といふ
山東の兗州府の曲阜
練といふ人これ其の
みよて十人といふ中
の一人に著るれ関子
と孔をてりぬる母を
たてて述母とてはの
よそ人といふ母を
して関子寒とてし若
くといふてらるれは
くかといふもいふて

善い事をするを徳とひるがふとあるをいふくわう
 きふれとあるところを善いといふて書とやみ
 るふくをいふと老とけりてなり

舍 側 事 泉 出 下 物 以 經 與

子
能
知
事
因
悔
之
者
於

全例甘泉おとく善詩書つしのまをくせりいふくいふ徳いふを

ついでにあらまきづゝやあると一船双歌集ありといふ由記す

ひるはといふも、
あつた河に
出るといふ者
のたまふ事

[illegible]

本をみれば其の^{その}とくあり^{ある}と云ふ^{いふ}ゆゑ^{ゆゑ}又^{また}姑^こと考^{かう}ふ

孝の心を能くし書も又此は若しくは中より取りてあるを

[illegible]

吳猛

いづれをいふに終る

あらずんばして考の

とまねるをきく^{きく}てあ^あ

五病に於て

其夜至帷帳

歟
歟
不
歟
揮

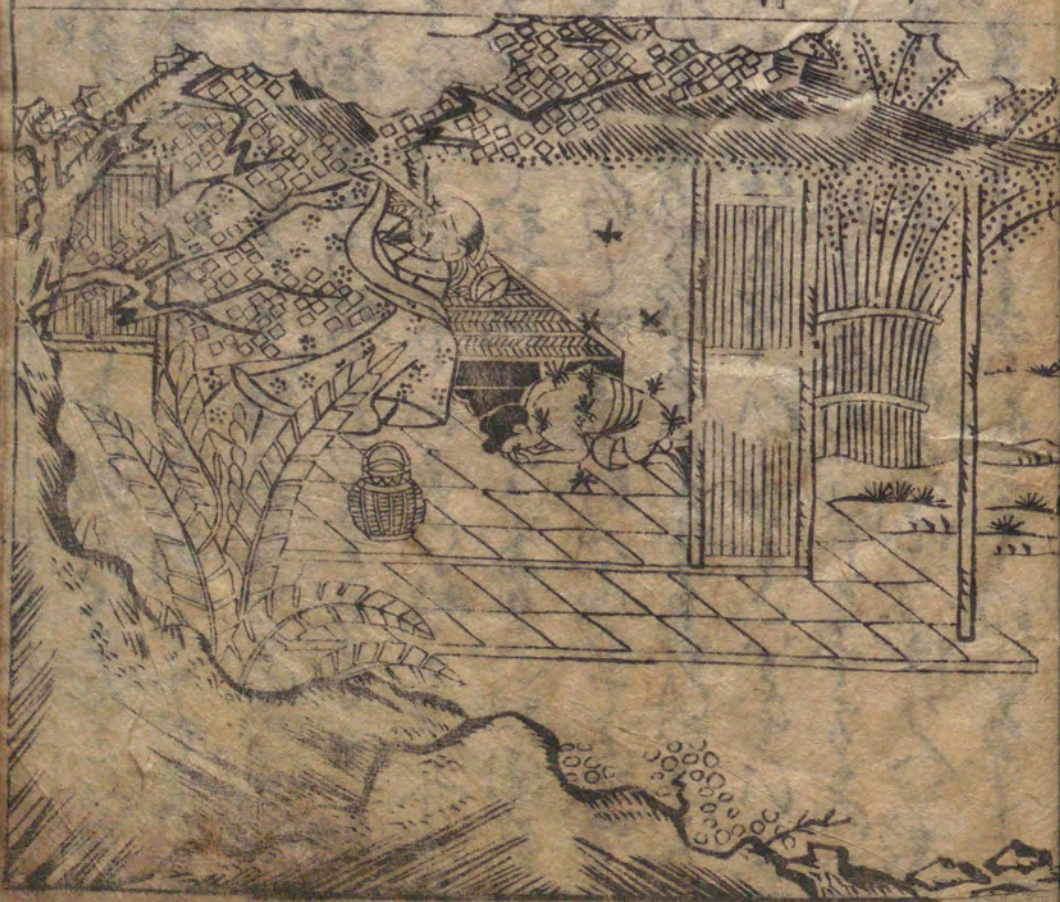
德渠膏血

免使入親聞

交^マ長^{チヤウ}は^ハ惟^イ忙^{マウ}を^ヲと^ト非^ヒ忙^{マウ}ハ

蚊香のきひなうてゑる

我々もあまにねをあれ



[illegible]

後漢の代の金の字と通
幸^カといふことばづからして
あふまゝとられてあつたと
し賃^ウとあらはれとをあら
父^ウ幸^カ老^ロて足^タたふれ軍
と死^シて父^ウとのせ田^デのあせ
とよて孝^コのといひやうを
葬^{ソウ}父^ウ賃^ウ方^{ホウ}兄^{ケイ}
天^{テン}姫^キ酒^{シュ}上^{ジョウ}途^ト
織^{オリ}倫^{リン}償^{チャウ}情^{ジョウ}主^{シュ}
孝^コ感^{カン}画^カ名^{メイ}



[illegible][illegible]

王祥

[illegible]

は漢の代に於て此書を撰
むるなり是よりあれて西へ去
る所を著と云ふの礼と也
天下に於て此書あれば必ず
之れが爲るなり其書の事
ひろくし人あり

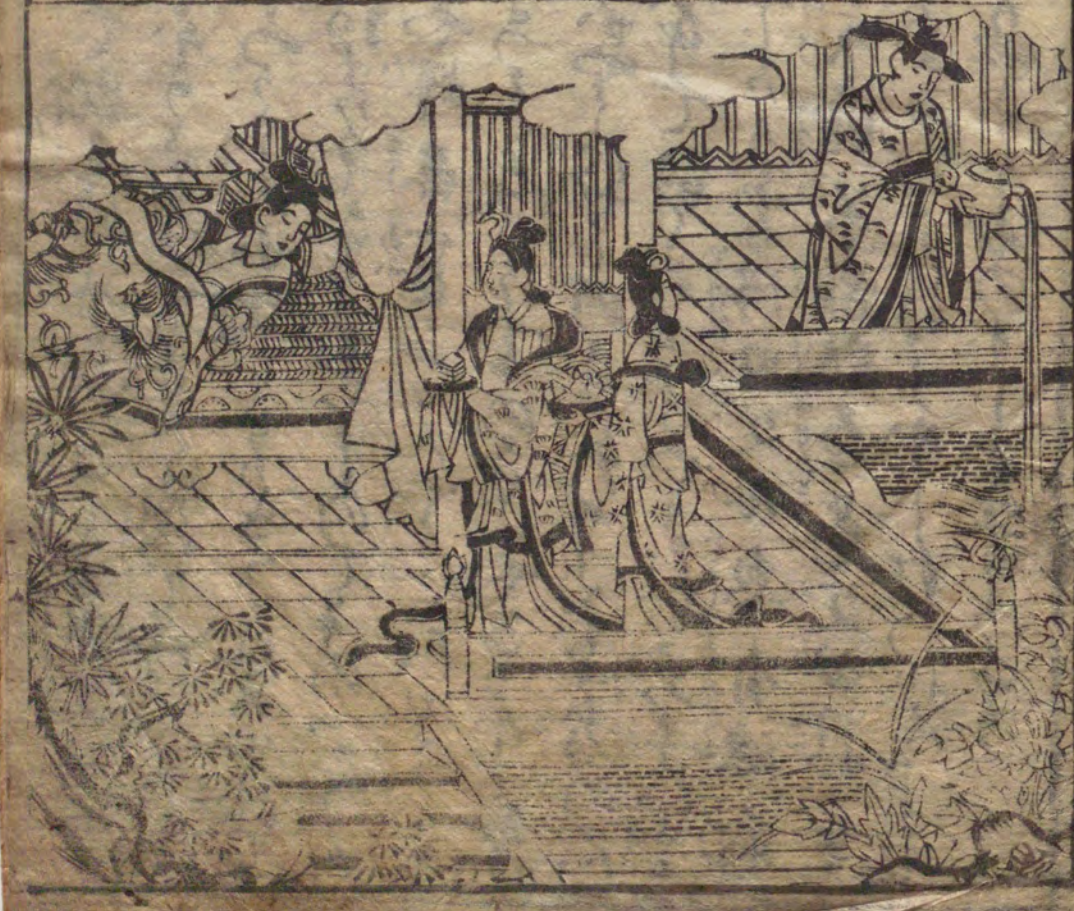
黒根 奉親園
赤眉 知孝順
牛耳 賜君地
馬振 文乃よしなど云々

うがは涙とありて父ろ死せんとありひ小年う日あはる
 あわれきうらにふんときききりるやの者のあはる
 縣りていふ旬日あすふ點妻やふまうていふは
 色たぬと云い種を瘡原よあををらていふ父といふあ
 かあるあきわつひうふあるを親あふとて死ふらた
 へ種くわあふとてあふとて父とてあふとてあふとて
 ぬきさんたひあふ小壘ふ愛ふともうとてあふとてあふ
 なるこ愛ふともうとて父とてあふとてあふとてあふ
 あふとてあふとてあふとてあふとてあふとてあふ
 せよとのあふや子四孝真大に嚴父とてあふとてあふ

利縣末旬日様庭邁疾源
 親お代死北壘世夢心

山谷

宋約う人あ詩八系
 此中よりあ家あき
 きて人あきうあ
 いとわ
 貴人天下
 平生孝事親
 汲泉涸溺雲
 婢妾宣無人
 孝親天下あきあふ
 山岳あふたふれ
 ふあ天下いふあ



てぬはま像うさめぬと事像と大なる事ふ二年他云
とをなれぬ和風ありて事像の如くなりなりとあり
またしむい像よりなりなりなり

[illegible]

田真田廣田廣

空人へ是より父死ては
 財宝とてふりてあり
 志い樹平よありと
 三よりして是を云ふ
 只よりよふなりと
 只れたるもさありと
 海彦家珊瑚
 群芳徳不如
 長月花満
 先ず復同
 海彦家珊瑚



刻來常慈叔
子姪
容在
其親

田真田廣田廣

A black and white woodblock print illustration from a Japanese book. It depicts three figures in traditional robes standing under a large, leafy tree. The figure on the left is looking up at the tree, while the other two are looking towards the right. A building with a tiled roof is visible in the background on the right.

[illegible]

光祿四年
未歲六月朔旦



梅村判兵衛新刊

